くらしの色彩研究会発足 10 周年記念パーティー　プレミニ企画

四間道の風情を感じながらゆっくり歩いて会場へ

■ 集合日時　8月8日（土）15:35 までにおいで下さい。（15:40 出発）

■ 集合場所　名古屋国際センタービル１F ロビー

地下鉄桜通り線　国際センター駅下車　駅の上が名古屋国際センタービルです。

※ 案内人のマゼンタカラーのドレスコードを目印にお集まりください。

急ぎ足で約５分の距離を２０分程度かけてゆっくり歩いて会場まで案内します。

近代的な国際センタービルの裏手に回ると、名古屋駅から歩いても 20 分程度とは信じられないような昭和 30 年代を彷彿させる民家が今もその姿をとどめています。庇上に屋根神様が残る古い民家や路地裏を通り抜け、元禄以来の古い町並みを残す四間道へ。その風情に触れながら、パーティー会場まで案内します。暑い時期ですので日傘等暑さ対策をしてご参加ください。

尚、当日の連絡方法　080-1590-8241　市場まで連絡ください。

火災から蔵屋敷を守る四間道　～愛知県名古屋市西区那古野～

蔵と屋敷の間に四間道の名の由来となった４間＝約７m幅の道

堀川沿いに立ち並ぶ蔵

古民家を活用したモダンな店や飲食店も並びはじめた

庇上にはこの地方独特の屋根神様が鎮座する

四間道（しけみち）は慶長 15 年（1610 年）名古屋城築城とともに始まった清須越（織田信長以来の城下町清須から名古屋へ商人たちが引っ越してきた）にともなって堀川運河沿いにつくられた商人町である。元禄 13 年（1700 年）の大火の後、防火の目的と商業活動のため、道幅を四間（約７m）に広げたのが、四間道の名の由来と云われる。石垣の上に建つ土蔵群と軒を連ねる町屋が四間の道を挟んで建ち並び、独特の景観をつくっている。

軍需工場が多かった名古屋は太平洋戦争末期には殆ど焼け野原になったにもかかわらず、奇跡的に戦災から免れ、名古屋駅に比較的近いにもかかわらず、開発からも取り残されたお陰で、古い名古屋の風情をよく残している。

1986 年には名古屋市の町並み保存地区に指定されたこともあって、古い蔵や町屋を活用しながら保存する機運が高まり、レストランや料理屋、あるいは洒落た店舗として活用が進んでいる。

四間道と直交するように円頓寺商店街がある。一時はシャッターの閉まった店も多かったが、地元の商店・住民による四間道の町並み保存と円頓寺商店街も含めた町の活性化の活動と相まって少しづつ活気を取り戻しつつあるようだ。私の子どもの頃には賑わっていた近隣のすずらん通り商店街や大曽根商店街が今は見る影もない中で、古き良き時代の面影を残す商店街を守り活性化していくのは間近に迫った超高齢者社会の到来との関係でも重要な課題である。

くらしの色彩研究会発足１０周年記念パーティーは、発足以来の研究会の伝統にふさわしく、四間道地区のほぼ中央に位置する古い蔵を改装したレストランを借り切って開催される。

（Color Lab. for full Life HP 連載 column より一部修正転載）